

[社 会]

自ら問いや疑問をもち追究する地域教材の授業展開をめざして

— 小学校社会科第3学年 工場で働く人と仕事 米菓工場の見学を通して —

燕 敏也*

1 はじめに

平成29年に告示された新学習指導要領¹⁾で示されているように、児童に社会的な見方・考え方を身に付けさせていくためには、課題を追究したり解決したりする活動を意図的に組織し充実させる必要がある。そのためには、一人一人の児童にとって問題解決的な学習過程の充実を図るため、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を図ることが大切である。児童が学習問題を見出し、見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見出したりする学習過程を工夫していく必要がある。

昨年度担任していた3学年の児童の実態は、見学や調査活動では意欲的に活動する児童が多かった。また、社会事象への興味・関心は高く、積極的な質問等も多く見学や調査活動を楽しみにしている児童が多かった。しかし、それがイベント的な形で終わってしまうことが多く、一人一人が問いや疑問をもちそれらを深く追究していこうという意識で活動に臨む児童は少なく、課題を感じていた。そのため、主体的に学ぼうとする児童の育成を目指す授業展開の工夫が必要であると考えた。

また、担任した学級の社会科の授業の実態としては、積極的に自分の意見や考えを発表することができる児童と、発表することに抵抗があり苦手としている児童とに分かれてしまう傾向があった。いつも発表する児童が固定化してしまい、発表に自信がもてない児童がいた。そこで、皆の前での発表が苦手でも、少人数での発表や話し合いの活動なら、気軽に自分の考えを発表できるのではないかと考えた。班やペアで考えを共有するといったような話しやすい形態を工夫し、児童同士がより対話しやすい形にすることで、意見交流を活発にしていけるのではないかと考えた。

3学年「工場で働く人と仕事」の単元で、米菓工場の見学を行う実践を行った。児童の実態としては、前単元のスーパーマーケットの見学では、興味や関心があっても、課題や疑問点が明確にされていない状態で、見学の活動を迎えてしまい、思考が十分に深まらず、結果的に主体的な学びにつながっていないのが現状であった。そのため、より身近な地域教材を取り上げ、それらに興味をもたせ、自ら問いや疑問をもちそれらを自らの学習課題として捉え追究していこうとする児童の姿が多くなること目指して実践を行った。

長岡市は、全国的にも米作り、さらにそれを原料とした米菓作りが盛んである。こうした全国的にも誇れる身近な地域素材を題材にし、興味をもたせることで主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、さらに活発な意見交流ができる授業形態を工夫することで対話的な授業を作り上げていくことができるのではないかと考え実践を行った。

2 研究の目的と方法

本研究では、主体的対話的な学習を深めるために、次の2つの手立てを考えた。これらの手立てが実践する過程において、有効であったかを、児童のノートや記述、発言等から検証する。

(1) 自己の体験と重ね合わせた問題解決の過程から、主体的な学びへとつなげる学習課題の設定

身近で地域に根差した米菓作りを取り上げることで、興味や関心をもたせる。米菓作りが地域の人々の生活と密接な関わりをもっていることが実感できるようにする。事前に米菓の手焼き体験を行い、実際の工場の生産の工夫について、児童が自分の体験と重ね合わせることで、その大変さや苦勞を知り、実際の工場での生産の工夫について深く考えられるようにしたい。

こうした体験的な学習をもとに、工場見学に向けた活動をより主体的なものにしたい。実際に工場でものづくりに携わる人の工夫や努力について身近に考えられるようにしたい。

まとめの学習では、自分が工場で働く人であったら、どのように工夫や努力をアピールするかという視点を与え、工場見学で

*長岡市立豊田小学校

分かったこと、考えたことをパンフレットという形で情報発信したい。最終的にパンフレットにし伝えるという目的を明確にし、見直しをもって見学活動を行いたいと考え実践を行った。

(2) 相互の対話から自己対話への過程を重視した学習形態の工夫

児童同士の意見交換の場を増やすため、一斉の発表だけではなく、グループでの練り合いを重視する。問いに対して、予想を立てたり疑問点を話し合ったりする意見交換の場を設定する。児童同士が互いに考え交流し合えるよう班やペアといった少人数グループでの話し合いの時間を確保し、対話の中でより自己の学びを深められるようにしたい。

米菓工場でのおいしい米菓をたくさん作るひみつに迫るという学習課題に向かって、おいしさのひみつを予想させたり、児童の疑問点を引き出させたりしてから見学に臨ませたい。そして、学習課題を解決できるよう学習したことの振り返りを行い、学んだことを発信していくことができる児童の育成を目指した。

3 実践の概要

(1) 単元の指導計画

① 単元名 工場働く人と仕事 ー米菓工場のひみつたんけん！ー

② 単元の目標

米菓の生産や販売の様子を調べるを通して、お客さんが安心しておいしい米菓を食べることができるようにするための工場側の工夫や努力について考えることができる。

③ 単元・教材について

本単元では、地域の人々の生産について、①地域には生産に関する仕事があり、それは自分たちの生活を支えていること、②地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の地域とのかかわりを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えることをねらいとしている。

新潟県は、多くの人々の努力により、米菓の生産量が全国1位である。米菓がどのように作られ、働く人のどのような工夫があるのか、児童が主体的に意欲的に追究できるよう学習を進める。児童は、自分の住む地域では米作りが盛んであることを理解している。米が原料となって煎餅やおかき・あられなどが作られている。こうした身近な食べ物を扱い、長岡市や新潟県をより身近に捉え、地域の良さを自覚できるようにしていく。米菓の生産の学習では教材提示の仕方や学習形態の工夫を行い、一人一人に米菓がどのように作られるのか予想させ、見学活動や学習のまとめの活動へつなげたいと考えた。

米菓作りに興味・関心をもたせるため、パッケージや米菓工場の立地の地図等の資料から、長岡市で米菓作りが盛んな理由を予想させたり、試食や手焼き体験によって米菓への関心を高めより身近なものとして捉えさせたりしたい。その後、長岡市に本社をもつE製菓へ見学に行く。E製菓は、伝統的な煎餅だけでなく、様々な米菓を作っている。チーズやきな粉を使った米菓などは、新商品として人気である。また餅の生産も行っており、全国に販売を広げている。工場ではおいしい米菓を作るために製造工程の工夫をしたり、商品開発を行ったりしている。おいしい米菓をより多くの人に販売するためにどのような工夫や努力があるかについて迫ることができる。米菓ができるまでの工程については、視聴覚教材を活用したり、実際に見学したりすることを通して体感させていく。原料はどこから運ばれ、どこへどのように発送されるか、予想を立てながら学習し、おいしい米菓作りや販売・サービスの向上について、事前に行ったスーパーマーケットの見学とも関連させていく。まとめでは、おいしい米菓作りのひみつについてパンフレットを作成することにより情報発信していく。

④ 児童の実態と展開の視点

児童はこれまでの学習を通し、問題解決的な学習の流れを少しずつつかんできている。問題を考えたり、予想したりしながら学習できる流れになっている。問題解決を図る際は、自分の生活経験を手がかりにしたり、具体的に活動したりして解決を図ってきた。各自の考えを出し合い思考を深めたり、キーワードをもとに自分でまとめたりできるようになってきている。

しかし、自分たちの住む町やスーパーマーケットなど、これまでの学習対象と比べて、工場生産の現場は児童にとって日常的なものと言い難く、体験に基づき思考することは難しい。そこで、児童が関心をもち続けながら、学習していけるように、問題把握の段階で、実際に米菓を食べさせたり、店頭で並んでいる米菓の様子を写真で捉えさせたりする。それにより、個々の児童に問題意識をもたせ、その解決を図る過程を重視する。問題追究の段階では、見学やインタビューの他に、写真資料や動画資料なども活用しながら生産活動の様子や働く人の様子について捉えさせ、ものを作る仕事は児童にとって身近なものとして感じられるように配慮する。資料の読み取りの際は、読み取りの視点を示し、資料から分かることを捉えさせ、文章化させる。また、事実の他に、

自分の考えを持たせていく。これらの視点から次の指導計画を立案した。

⑤ 単元の評価規準（全12時間）

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
米菓工場の生産活動に関心を持ち、携わる人々の努力や工夫に着目しながら、意欲的に調べようとする。	米菓作りの特色や携わる人々の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて考え、資料に基づいて説明したり、パンフレットにまとめたりすることができる。	見学やインタビューによって必要な情報を集めたり、資料から米菓作りの工夫や努力を的確に読み取ったりすることができる。	米菓作りでは、地域や県内外の消費者の願いに応える生産活動が行われていること、原料や製品を通して自分たちの生活や他地域と結びついていることを理解する。

⑥ 学習指導計画 単元：「工場で働く人と仕事 ー米菓工場のひみつたんけん！ー」（全12時間）

時間	○ねらい ・主な活動	・支援 ●評価
1 米菓のおいしさのひみつ（1時間）	○米菓の製品に関心をもつ。 ・米菓工場の写真や地図を見て、分布や製造場所を調べる。米菓の起源や歴史を調べる。 ・試食をして感想を発表する。 ・煎餅の手焼き体験をする。 （総合的な学習の時間2時間）	・米菓を試食して感想を自由に発表させる。 ・「米菓のおいしさのひみつ」に興味をもたせるように写真や資料を活用させる。新潟県は米菓の生産が全国1位であること、原料はお米であることに着目させる。 ●長岡市で作られている「米菓」について興味や関心を持ち、それについて調べようという意欲をもったか。【関心】
2 米菓工場の見学の計画を立てよう（1時間）	○米菓工場の見学に意欲を高める。 ・おいしい米菓をたくさんつくるひみつを予想し、米菓の製造・店・工場に対して興味や疑問をもつ。	・疑問点を記述することができるようにする。 ・自分なりの予想を立てさせる。 ●工場の仕事にはどのような工夫があるのかを予想し、学習課題を作ることができる。（ワークシート）【思考】
3 米菓の作り方（1時間）	○米菓作りの手順を理解し、質問を考える。 ・米菓作りの手順や工程をパンフレット等で調べ、工場見学の計画を立てることができる。 ・質問事項をまとめる。	・パンフレットやインターネット等の資料を提示し活用できるようにする。 ●工場の仕事にはどのような工夫があるのかを予想し、学習課題を作ることができる。（ノート）【思考】
4 米菓工場へ行く E製菓さんを訪ねよう （見学・インタビュー） （2時間）	○工場の見学し、工場の中の様子や、工程、働く人の役割について捉える。 ・米菓作りについての店の方の話を聞く。 ・計画にしたがって見学や体験をする。 ・疑問点を質問し、必要なことをメモする。	・米菓のおいしさのひみつや、全国1位の理由について話してもらおう。衛生面への配慮についても話してもらおう。 ・E製菓を見学し、作業工程を理解できるようにする。 ・質問をし、分かったことをノートまとめさせる。 ●作る工程と働く人の工夫という2つの観点に基づいて、見学・体験・インタビューを行う。【技能】
5 見学からもどって分かったことをまとめよう （1時間）	○見学・インタビューをして、分かったことを整理し、さらに調べたいことを確かめる。 ・見学・体験を振り返り、働く人が気を付けていることや工夫を整理する。 ・どんな仕事があるかまとめる。	・工場では主に地元の人が働いていること、働く時間について分かったことをまとめさせる。 ●見学・体験で分かったことを出し合い、それらを整理しまとめようとしている。【技能】 ●様々な仕事があることが分かり、働く人が働きやすいように、働く時間や設備などを工夫していることが分かる。（ノート）【知識・理解】
6 働く人が気を付けていること （1時間）	○お客さんが安心しておいしい米菓を食べることができるようにするための工夫や気を付けていることについて考える。 ・工場の設備や働く人の服装について調べる。 ・米菓工場で調べた工夫をもとに、そこで働く人の思いや願い・努力について考える。	・衛生面の配慮など特に食品を扱う仕事で気を付けることなどに注目させ、話し合わせる。服装・検査・衛生・安全面について観点を示す。 ●工場の設備や働く人の服装の様子から、安全・衛生に気をつけながら、仕事をしていることに気づく。 （ワークシート・話し合い）【思考】

7 原料はどこから、製品はどこへ (1時間)	○原料はどこから 製品はどこへいくのかを、話や資料をもとに理解する。 ・質問したことやインタビューをもとにまとめる。米菓の原料が運ばれてくる地域や製品の発送方法を調べる。	・地図等を利用してどのあたりでとれた原料を使って、どこへ発送されているか理解させる。 仕入・製品・出荷の流れをおさえる。 ●原料が運ばれてくる地域や配送先、工場の立地条件について地図や資料から読み取り、地図に表す。【技能】	
もっと知りたい米菓作り	8 仕事の工夫を伝えよう (2時間)	○宣伝する「パンフレット」を作る。お店の創意・工夫を探し紹介する。「米菓のできるまで」を中心に見学したことをもとにチラシを作る。 ・作り方や、おいしくするための工夫について、それぞれがテーマを設定しまとめる。	・絵や写真を入れて分かりやすいようにまとめさせる。下学年や保護者にも分かりやすいようにまとめる。「自分が工場の経営者だったら」という視点を与える。 ●米菓作りについて学習したこととキーワードをもとにして宣伝「パンフレット」にまとめる。【技能】
	9 地域とともに歩むものづくり (1時間)	○作成したパンフレットを紹介し合い、質問し合うことで交流する。おいしい米菓作りのひみつをまとめる。 ・パンフレットの発表のよい所を伝え合う。 ・米菓作りの歴史・おいしいひみつを調べ、工夫や地域とのつながりについて気付く。	・長岡地域の他の製品にも目を向けさせる。 ・商品売る仕事や製品を作る仕事には、様々な工夫がある。それらは消費者としての私たちの要望に対応しており、市町村を越えたつながりをもっていることが分かる。 ●店や工場、農家の人たちは自分たちと関わりがあり、自分たちの暮らしを支えていることをパンフレットの発表を通して表現する。【技能】
10 お礼の手紙を書こう	○見学先にお礼の手紙を書く。学習の中での驚きや発見について、感謝の気持ちを書く。	・活動を振り返り、感謝の気持ちを込めて、丁寧な文字で、お礼の手紙を書けるように指導する。	

(2) 指導の実際と考察

① 米菓工場のひみつの予想から学習課題を設定する
(第1時・2時の様子から)

第1時や総合的な学習の時間に米菓に関心をもたせるため、米菓の試食や手焼き体験(写真1)を行った。それらの活動を通して、『米菓のおいしさのひみつ』を調べてみたいという意欲付けを行った。

試食をすると、「きなこもちはどうしてやわらかくできるのか?作り方を知りたい。」といったような疑問がでた。また、手焼き体験では、「あつというまに焦げて、火かげんがむずかしい。」「どうやって同じ味を作っているんだろう?」という感想や疑問も出た。こうして自己の体験をもとにもっと調べてみたいという疑問が生まれ、米菓作りへの関心が高まった。

第2時では、前時の試食や手焼き体験の感想を発表し、それをもとに、新潟の米菓のおいしさのひみつをせまろうという課題を提示し、米菓工場の見学へとつなげた。

米菓工場の写真や、新潟県が米菓の生産1位である資料、米菓工場の地図や米菓のパッケージ、ちらし等の資料を提示した。そこから、工場でおいしい米菓をたくさん作るためにどんなひみつがあるのか、予想を立てさせた。付箋を使いできるだけ多くのひみつを予想し記入させた。個人で予想したことを、班で発表し合いさらに各班で出た意見を全体で発表し共有した。その後米菓工場へ実際に見学に行くことを告げ、「どうして工場ではおいしい米菓をたくさん作ることができるのか?」という疑問を明らかにしようと意欲付けを行った。

児童が予想したひみつは表1の通りであった。予想された



写真1 手焼き体験の様子

表1 [児童が予想した米菓工場のひみつや工夫]

〈原料・米に関すること〉

- ・地図を見たら、長岡市や新潟県には、何件も工場がある。
- ・袋に原料は米と書いてある、新潟はおいしいお米がたくさんとれるからかな。(A児)
- ・米づくりが盛んだから昔から続いてきたんだな。

〈味の工夫〉

- ・きなこやチーズをつかったふんわり揚げは、新商品みたいだ。
- ・どんな味が人気か調査して、お客さんが喜ぶような煎餅をつくるのではないかな。(B児)

〈製造方法について〉

- ・作り方にひみつがありそうだ。調べてみたいな。
- ・大量に作る大きな機械にひみつがあるのかな。(C児)

〈働く人について・その他〉

- ・E製菓はテレビでも宣伝してるよ。アピールして有名になったのかな。(D児)
- ・全国にも発送しているようだ。
- ・心をこめて作っているからかな。

ひみつは4つに整理することができた。児童は、米菓の生産が全国1位であることや、工場の立地の地図から米菓工場が多いことを資料から捉えた。さらに、原料の米の生産が新潟県は1位であるという資料を提示すると、A児のように米作りが盛んであることが米菓作りと関連しているのではないかと予想を立てる児童もいた。米菓作りを自分の住んでいる長岡市にとって誇れるものとして捉えて身近に感じる児童も多かった。

前時に体験した試食の経験から、B児のように味の工夫について考える児童も多かった。手焼き体験をもとに、C児のように機械にひみつがあるのではないかと注目し、「製造工程は、手焼きとどのように違うのか?」「どうやって同じ味を作るのか?」という疑問も生まれた。前単元で見学したスーパーマーケットには、地元の米菓のコーナーがあったことを思い出し、D児のように宣伝や販売方法に注目する児童もいた。米菓工場ではどのように米菓を製造し、そこで働く人はどのような工夫をしているのか調べてみたいという学習課題が設定された。児童は、意見を発表し合いながら対話により米菓作りを地元長岡市で作られる身近なものとして捉えた。そして、米菓作りには、働く人の努力や工夫があることに気づき、それらをもっと調べてみたいという意欲をもつことができた。

② 米菓工場で見つけたひみつや工夫を班や全体で共有する

(第6時の様子から)

第6時では米菓工場の見学(写真3)を終え、前時に分かったことを整理した(写真4)。お客さんが安心しておいしい米菓を食べることができるようにするための工夫や気を付けていることを挙げ、それらをもとに、米菓工場で働く人はどのような思いや願いをもって働いているのかを考えて発表し合う場を設定した。

見学では工場の人々が厳重な手洗い、帽子や白衣で衛生面に気を遣っている様子を写真資料で振り返った。実際に、工場で働く人の帽子を身に付けさせてもらった児童があり、工場の服装を体験した児童の写真も提示し(写真2)、見学で分かったことを振り返り、働く人たちの思いや願いに迫った。個人で付箋に記入し、それを班で発表し合い、最後に全体で共有した(写真5)。

機械については、「早く作れる機械があるから、1時間に5千枚できる。」「大きな網で焼いている。」という工夫が挙げられた。手焼き体験で焦がしてしまった児童は、温度について、「米菓を焼く温度は、機械で調整している。200度から220度。焼く温度を天気によってかえている。」ということも挙げ、焦げないように焼き加減を一定にするための努力や工夫に気づくことができた。服装については、「一番気をつけていることはごみや髪の毛を入れないこと、そのために、帽子を二重にかぶる。」「専用のくつをはき、しっかりと白衣を着る。」「ローラーやエアシャワーでごみや髪の毛をとる。」という工夫が挙げられた。機械・服装・原料といったキーワードを絞ることで、工夫を整理する視点を与えることができた。

整理された工夫をもとに、米菓工場で働く人の思いや願いを予想した。児童の記述・発表は表2の通りであった。C児は、予想した機械の工夫だけでなく、班での意見交流や与えられた視点によって、衛生面にも注目し、「服装にここまで気をつかうのは、安全に食べてほしいから…」という願いをワークシートに記入していた。

A児は原料のおいしいお米に注目していたが、班や学級全体での意見交流を通して、原料のよさだけでなく、工場で働く人たちの努力や工夫を知り、全国の人に食べてほしいとい



写真2 白衣の試着体験



写真3 米菓工場の見学の様子

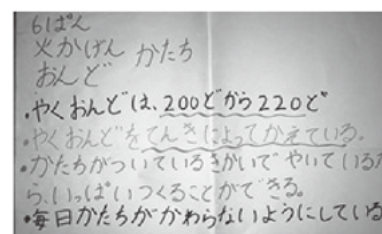


写真4 見学して分かったこと
班ごとのまとめ

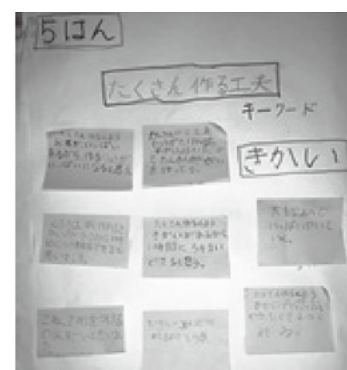


写真5 班で出し合った工場で見つけたひみつ
(付箋を活用して)

表2 [児童が予想した工場働く人の思いや願い]

〈機械〉

・米菓を作っておいしくたくさん食べてほしい。

〈服装衛生面〉

・安全に米菓を食べたい。食中毒になったら大変。髪の毛一本でもいれないように、手洗いや服装に気をつけなければならない。(C児)

〈働く人・その他〉

・売上を上げて工場が有名になってほしい。
・全国の人に運んでもらって、おいしい米菓をたくさんの人に食べてほしい。(A児)
・新しい商品を開発して、おいしく食べてもらいたい。たくさん売りたい。

う思いを予想するに至った。

これらのことから、おいしさのひみつに迫るという課題に向かって、班での意見交流や対話を行うことで、違った角度からの視点を与えられ、児童の思考が深まったと言える。

③ 米菓工場のひみつや工夫をパンフレットで情報発信する

(第8時・9時の様子から)

第8時では、自分が工場で働く人になって、工場の工夫を紹介する宣伝パンフレットを作成した。事前の学習や見学で調べた米菓の作り方、おいしくするための工夫という視点を与え、パンフレットを一人一人に作成させた。

第9時では、作成したパンフレットを班で紹介し合った。作成の段階で、「自分が工場を経営する人だったら・・・」という視点を与えたので、児童は自分だったらどのように製品をアピールするかを考えて記述し、発表することができた。見学してきたことを、イラスト等を交えて分かりやすく表現している児童が多かった。自分だったらどんな工場にしたいかと視点を与えることで、パンフレットを意欲的に作成する児童が多く、それぞれの児童が見つけた米菓のおいしさのひみつを、働く人の思いを考えながらパンフレットを作成することができた。

4 成果と課題

実際に手焼き体験がもとになって、資料やちらしから、おいしさのひみつを予想し学習を進めた。そして、見学活動を通して、手焼きとの違いを明確にして機械のすごさや衛生面へ配慮、働く人たちの工夫を理解することができた。工場の人々がどのような思いで米菓を作っているかということについて、少人数での話し合いから全体での共有により、深く考えることができた。また、自分だったらどのような工夫をアピールするかということを考える場を設定することで、まとめにつなげることができた。

このようにして、米菓作りを身近な地域素材として活用がすることが、主体的な学びにつながった。パンフレットを作って伝えるという見通しをもたせ、自分が工場の人だったらどんな宣伝をするかという視点を与えることも有効な手立てであった。

意見交換をすることで、一斉では発表しづらいことも気軽に話げできた。さらに出た意見を班で発表するという形をとったので、共有の場面でも、班の意見として発表しやすい雰囲気生まれた。発表はしやすくなり、考えは深まったと言える。質問し合ったり、友達の意見を聞いたりする機会も増え、個人の学習にとどまらず、意見を共有し合うことができるという効果があった。

KJ法という形式で、付箋やホワイトボードを使っての発表形態であったため、話し合いの仕方や班での分担・司会の方法などのスキルが必要であった。他教科でも回数を重ねスキルを経験していかなければうまくいかなかった。話し合うという形に慣れるには他教科でも同様の形態をとる機会を増やしていかなければならない。スキル指導だけで終わってしまわぬよう、本当の社会科のねらいに迫る必要がある。

長岡市の全国的にも誇れる身近な米菓という地域素材を題材にし、児童に興味をもたせることで、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせることができ、活発な意見交流ができる授業形態と工夫することでより対話的な授業を作り上げていくことができた。地域素材を教材化し、問題解決的な学習を行い指導の学習意欲を高め、活発な意見交流ができる授業形態を工夫することは、主体的対話的な学習を深めるのに有効であると言える。

授業研究に限らず、年間を通して常に日々の授業の中で地域素材を生かし、児童の興味や関心を引くデータや資料を用意し提示していかなければならない。活動の見通しをもって活動することも大切である。年間を通じて学習計画を練り、教材を蓄積することで、児童がより活動の見通しをもてるカリキュラムづくりに生かせるようにしていきたい。

引用文献

1) 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』(日本文教出版, 2018) 17頁

参考文献

- 1 澤井陽介『社会科の授業デザイン』(東洋館出版社, 2017)
- 2 東洋館出版社編集部編『小学校新学習指導要領ポイント総整理』(東洋館出版社, 2017)
- 3 北俊夫『「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくり』(明治図書出版, 2018)
- 4 社会科授業づくり研究会編『子どもの追究力を高める教材&発問モデル』(明治図書出版, 2018)
- 5 北俊夫・加藤寿朗編『新学習指導要領の展開社会編』(明治図書出版, 2018)